

平成29年度 学校評価取りまとめ表 千葉県立幕張総合高等学校

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評 価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度 に向けた改善 方策)
学校経営	<p>1 教育活動を積極的に発信し、開かれた学校づくりを一層推進する。</p> <p>2 心身の健康を守り、安全・安心を確保することができるようにする。</p> <p>3 職員の不祥事防止意識の徹底と健康の保持増進を推進する。</p>	<p>①地域と連携した教育活動を推進し、ホームページの内容を随時更新するなど最新の情報を提供する。</p> <p>②災害発生時の避難経路の確認や施設設備の点検、日常の安全指導等をおして、確かな危機管理対応を図る。</p> <p>③不祥事防止意識の徹底のために、情報提供と事例周知や研修により、不祥事0を実現する。</p>	<p>①ホームページの掲載内容及び更新回数</p> <p>②防災に関するマニュアルの再点検及び訓練実施状況並びに防災対策等の準備状況及びアンケート結果</p> <p>③職員研修会の実施状況及びアンケート結果</p>	<p>①ホームページの更新は年間約50回であった。昨年度は80回以上あり減ってしまった。</p> <p>開かれた学校づくり委員会が運営したミニ集会では関係者からの呼びかけを強化した結果、例年の2倍以上の約70名が参加した。</p> <p>前期選抜の選抜・評価方法の改善方を検討し、ホームページで公表するとともに、説明会を開催した。1/26に発表された進路志望調査では、例年並みの志望者数を得ることができた。</p> <p>保護者対象の学校評価アンケートは校内一斉メール配信システムによる呼びかけの斐があり回答率が昨年度の68%から80%に上昇した。</p> <p>組織的な取組について職員アンケートの肯定的評価が昨年度の90%から80%に落ちたのが課題である。</p> <p>②年度初めに防災に関するマニュアルと学校安全点検表の更新を行うとともに、全職員による安全点検とその結果を踏まえた施設設備の修繕等を計画的に進めることができた。</p> <p>職員の防災教育に関する肯定的評価も昨年度の76%から80%に上昇した。</p> <p>ストレスマネジメント研修会を開催した。</p> <p>③職員研修会は不祥事防止研修会・IT研修会・特別支援研修会等、年間10回以上開催した。</p>	<p>①昨年度ホームページに掲載していた「校長通信」を来年度から再開する。</p> <p>ミニ集会や保護者対象学校評価アンケートについては、今年度と同様呼びかけに努める。</p> <p>②防災に関するマニュアルの見直しを毎年行うとともに、学校安全点検と施設設備の修繕を引き続き進める。</p> <p>③引き続き不祥事防止研修会を年間計画に位置付けて実施するとともに、本校の課題を踏まえて適切なテーマを設定し、職員研修会を計画的に開催する。</p>	<p>①ホームページはわかりやすく興味深い。「校長通信」等更新するのは大変ではないか。更新しやすいシステムにすべきである。</p> <p>②Jアラートの対応も考えてほしい。</p> <p>③「不祥事防止」という言葉は、内向きな印象を与えかねない。「コンプライアンス意識の向上」といった、より幅広く、前向きな言葉に変えた方がよい。</p> <p>職員は多忙ではないか。何でも引き受けて熱心にやるのが日本の教員の持ち味であり、それが教育を支えている側面もある。しかし国が推奨しつつある「働き方改革」の方針に従い、本校でも改善方策を考えてほしい。</p>	<p>①更新しやすいホームページ構築システム(ネットコモンズ等)の導入を検討する。</p> <p>②防災マニュアルに北朝鮮ミサイル対応を加える。</p> <p>③今年度の重点目標「職員の不祥事防止意識の徹底」を来年度からは、「職員のコンプライアンス意識の向上」へ変更する。</p> <p>国や県の方針を踏まえて、勤務状況の改善を図る。</p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評 価基準)	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果 を踏まえた課題 ・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のま とめ(課題と次年 度に向けた改善 方策)
学習指導	<p>1 わかる喜び・学ぶ喜びを体感できるよう、主体的な学びができるようにする。</p> <p>2 自学自習の確立と十分な学習時間を確保するための支援を強化する。</p> <p>3 教科指導の工夫改善を進める。</p> <p>4 総合学科への移行を踏まえ、目指す将来像を検討する。</p>	<p>①管理職による授業観察や生徒の授業アンケートを活用する。</p> <p>②放課後や長期休業中の補習を充実させ、参加生徒の増加を図るとともに、学習記録の活用により学習意識を醸成し、家庭学習時間の確保を促す。</p> <p>③授業研究や授業公開を積極的に推進し授業力向上を目指す。</p> <p>④総合学科委員会を中心に教育課程、学習指導方法、施設設備の拡充等について具体的な検討を進める。</p>	<p>①管理職による授業観察の実施及び指導。生徒による授業アンケート結果</p> <p>②補講の開講数と受講生徒数及び受講状況及びアンケート結果</p> <p>③授業研究や授業公開の開催状況</p> <p>④総合学科委員会、大会の開催状況、大学入試改革への対応等</p>	<p>①管理職による授業観察や初任研・フォローアップ研・指導課訪問等の機会を積極的に活用するなどして、授業改善について職員への意識向上を図った。生徒の「私は、授業の内容が理解できる」に対する肯定的評価は75%前後で昨年度と大きな変化はないが、保護者の「職員は、わかりやすい授業に努めている」に対する肯定的評価は昨年度の79%から69%に落ちたことが課題である。</p> <p>②生徒の「私は、家庭でもしっかりと勉強をして、予習や復習をしている」に対する肯定的評価は昨年度の40%から47%に上昇しているものの未だに低く、保護者の「子どもは、ほぼ毎日家庭学習をしている」に対する肯定的評価は昨年度の52%から45%に落ちている。</p> <p>進学補講は夏季・前期・後期・通年合わせて54講座、延べ955名の生徒が受講した。</p> <p>③今年度実施した授業公開には保護者・地域住民等、計370名が参観した。保護者の中には、公開日と担当教員の出張が重なり自習になってしまった学級があり、残念だという声もあった。</p> <p>④総合学科委員会は毎月1回程度開催し、必要に応じて教育課程検討委員会との合同会議を行い、系列や教育課程の大枠を決定した。また総合学科に関する職員研修会を開催し全職員の理解を深めた。</p> <p>大学入試改革に対応するための3年間の重点指導方針を作成した。</p>	<p>①授業改善をテーマとし、研修相見会や教員相互の授業見学会を組織的に、計画・実施する。</p> <p>②進学重視型総合学科への移行を踏まえ、将来のキャリアを進めようとする見方を見出し、再検討し、生徒の意識向上と家庭学習の充実を図る。</p> <p>③授業公開日の在り方を工夫する。</p> <p>④「進学重視型総合学科」を実現するため何が必要なのかを職員間で十分論議を重ねて、改革を進める。</p>	<p>①来年度はぜひ、授業改善に向けた具体的な取り組みを進めてほしい。</p> <p>②生徒が将来の目標を見据えること、保護者が生徒と目標を共有し、支えることが大切である。</p> <p>③例えば、授業公開日の前後1週間は、保護者が自由に授業見学できるようにするなど工夫はどうか。</p> <p>④高大接続や新学習指導要領に対する改善をしていく必要がある。</p>	<p>①授業改善をテーマとし、研修相見会や教員相互の授業見学会を組織的に、計画・実施する。</p> <p>②学年と関係分掌を連携させて、保護者と協力して生徒の家庭学習習慣をつける方策を検討し実施する。</p> <p>③授業見学の週間は、教員の負担を軽減し、授業改善の機会を確保したい。</p> <p>④現在検討中の「学校教育デザイン」(幕総システム)を具体化させて新1学年から実施する。</p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評 価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善 方策)
生徒指導	1 基本的生活習慣の徹底と豊かな心の育成を図る。 2 生徒の心身の健康管理とインクルーシブ教育の推進を図る。	①定期的な服装指導や日常的な挨拶の取組を推進するとともに、道徳教育の充実を図る。 ②スクールカウンセラーや校内組織を活用し相談活動を進めるとともに、特別な配慮を必要とする生徒に随時対応する。	①アンケート結果と年間計画に基づいた道徳教育の推進状況 ②校内研修会や相談活動の実施状況及びアンケート結果	①生徒の「幕総生は、学校の規則を守り、あいさつが良くできている」に対する肯定的評価は 85%前後で昨年度と同様高いが、保護者の「本校は、保護者と適切に連携をとりながら、生徒指導を行っている」に対する肯定的評価は、昨年度の 69%から 65%に落ちており、特に「達成できている」の評価が 9%と低い。 インターネット安全教室を実施するとともに、道徳教育を、年間計画に基づいて着実に推進しており、看護科 3 年生による「命の授業」など本校ならではの企画も多い。 ②hyper-QU 研修会等、教育相談や特別支援関係の職員研修会を 3 回、生徒向け研修会を 2 回実施した。 また生徒向けに、コミュニケーションウィーク 1 回、学校生活アンケートを年 3 回、いじめアンケートを 2 回、セクハラ体罰アンケートを年 1 回実施した。 生徒の「幕総はいじめ防止に努めるとともに、悩みを相談できる先生がいる」に対する肯定的評価は昨年度の 61%から 81%に上昇、同様の質問に対する保護者の肯定的評価は昨年度同様 85%、教職員の肯定的評価は昨年度の 83%から 94%に上昇した。	①生徒指導に関する保護者への情報提供を強化する。 道徳教育や安全教室については、引き続き年間計画に基づき適切に推進する。 ②引き続き教員対象の校内研修会、教育相談活動を適切に推進する。 来年度の通級指導に向けた準備を組織的に推進する。	①スマホの学校への持ち込みについては、中学校と状況や発達段階も違うので本校では容認しており授業等で活用する場合もあるそうだが、適切な指導は必要である。 ②週 2 回来校するスクールカウンセラーはフルに活用している。また、養護教諭の役割も大きい。相談活動がきめ細かく、確実に改善されていてよい。	①スマホやインターネットについては、正しく効果的に使う指導も引き続き進める。 ②引き続き生徒へのきめ細かな相談活動から通級指導を組織的に進めていく。

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価 基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
キャリア教育	<p>1 高い志をもち、的確な進路目標を定め、実現に向けて取り組むことができる力を育成する。</p> <p>2 学外学修や高大連携を推進する。</p> <p>3 生徒のキャリアアップに向けた履修指導を行う。</p>	<p>①各種説明会等を通じて、高いレベルの目標設定とチャレンジ精神の涵養を図る。</p> <p>②高大連携の推進に向けて、学修の拡大と人事交流などの連携を図る。</p> <p>③保護者との連携を密にし、生徒個々の興味・関心・適性等に応じた履修指導を行う。</p>	<p>①進路説明会、キャリアセミナー等の開催状況及びアンケート結果</p> <p>②高大連携や学外学修及び大学体験の講義や参加状況</p> <p>③履修に関する担任との面談及び保護者の状況</p>	<p>①進路説明会、キャリアセミナー等は、年に11回実施した。</p> <p>生徒の「幕総は、生徒のニーズに合った進路学習・補修が行われている」に対する肯定的評価は、昨年度の80%から84%に上昇したが、保護者の「本校は、保護者と適切に連携をとりながら、進路指導を行っている」に対する肯定的評価は、昨年度の67%から59%に急落している。教職員は「進路指導に関して、保護者や外部との適切な連携がなされている」に対する肯定的評価が昨年度の81%から89%に上昇しており、認識の差がみられ、進路指導が保護者の期待に応えきれていないことがわかる。</p> <p>②学外学修については、高大連携説明会を実施し、千葉大学の講座に2名、神田外語大学の講座に1名が参加した。連携している大学は十分にあるが、生徒の参加人数が多くなかった。</p> <p>今年度、多摩美術大学との高大連携の協定を結び、来年度から実施することとした。</p> <p>③履修に関する説明会は、保護者向けも含め5回実施するとともに、個別指導を進めた。</p> <p>生徒の「幕総は、生徒の進路希望にあった教科・科目が用意されている」に対する肯定的評価は昨年度と変わらず91%と高い。</p>	<p>①引き続き進路説明会、キャリアセミナー等を年間計画に位置付け適切に実施する。</p> <p>進学重視型総合学科への移行を踏まえ、将来のキャリアを見すえた進路指導の在り方を学校として再検討して実践し、生徒の意識向上と家庭学習の充実を図る。(再掲)</p> <p>②多摩美術大学との連携開始をきっかけとして、生徒への魅力ある講座の提供について関係大学と協議する。</p> <p>③引き続き履修指導に関する説明会や個別指導を計画的に推進する。</p>	<p>①キャリア教育に必要な説明会等を引き続き適切に実施してほしい。</p> <p>②学外学修の少なさが気になる。</p> <p>③キャリア教育とからめた履修指導を引き続き適切に実施してほしい。</p>	<p>①現在検討中の「学校教育デザイン」(幕総システム)を基に策定する「進路・学習指導デザイン」にこれまでの進路説明会、キャリアセミナー等を適切に位置づける。</p> <p>②学外学修については、多様な形態を模索し、積極的に進める。</p> <p>③総合学科への移行を機に、教育課程を整理し、よりわかりやすい適切なキャリア教育に取り組む。</p>

	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価 基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏ま えた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善 方策)
特別活動	1 生徒の健康・安全で 活気ある学 校生活を支 援する。	①部活動等への 積極的な支援 と県内行事と の交流を推進 するとともに、 学校行事の活 性化を一層支 援する。	①部活動顧問 の指導状況、 鼎祭の開催 状況、及びア ンケート結 果	①今年度の部活動加入率は 93%で 例年どおり高い。全国大会・関東 大会に出場した部活動も 15。そ のうち陸上女子3段跳び及び将 棋女子団体は全国優勝を果たし た。 鼎祭文化の部には、約 8,300 名 の入場者があった。 生徒の「幕総は、文化祭・体育 祭など学校行事が楽しい」に対 する肯定的評価は昨年度と同様 92%と高い。保護者の「本校の学 校行事は、適切に行われている」 に対する肯定的評価も同様に高 く 96%である。教職員の「生徒会 活動や委員会活動等の特別活動 が適切に実施され、その充実に努 めている」に対する肯定的評価も 昨年度より若干落ちたものの 91%と高い。	①今後も学習指導と のバランスを取り ながら、適切な部活 動指導や学校行事 の企画運営を行い、 文武一道を実現す る。	①ベイタウンマラ ソンや音楽会な ど、地域活動に積 極的に参加して盛 り上げてくれてい ることに感謝した い。 学習指導と部活 動指導との balan スは大事である。	①部活動等 の地域活動 への参加を積 極的に推進 する。学習と部 活動との一 層の調和を 図る。
特色ある教育活動	看護科・専攻 科の教育 1 看護に関 する基礎的 ・基本的な 知識と技術 や健康の保 持増進に寄 与する能力 などを育成 する。 2 看護師国 家試験対応 を充実させ る。	①面談等によ り、生徒一人 一人の学習状 況の把握に努 め指導にあ たる。また、 保護者との 連携を密に して生徒の指 導にあたる。 ②国家試験対 策の集中補講 ・国家試験模 擬試験等を実 施し、看護師 国家試験の合 格 100%を目 指す。	①実習先の病 院等からの 評価結果 ②看護師国家 試験(毎年3 月末合格発 表)の昨年度 の結果と専 攻科修了生 の今年度進 路状況	①若干のインシ デント(レベ ル0)は発生 したが、大事 には至って いない。実習 先の病院から の評価は概ね 良好である。 ②昨年度の国 家資格合格率 は 97.1%であ った。今年度 の進路先は1 名が4年制大 学へ編入、そ 他の学生は病 院への入職が 内定している。	①病院側、職員 、実習生との 報告・連絡・ 相談の更なる 徹底する。 ②目的意識を もって進路実 現に向かわせ る。計画的な 模試の実施。一 人一人の適性 を見極めての 進路指導を行 う。	①実習への対応 は子供・保護 者・学校が連 携して厳しく 綿密にやって いた ②国家資格合 格率が高いこ とは評価でき る。	①病院・職員・ 保護者が連 携して引き 続き、きめ の細かい実 習指導を行 う。 ②引き続き 看護師国家 試験の合格 100%を目 指し、適切 なキャリア 教育を推進 する。